

## 談話室

漫画家  
**安田まさえ** さん  
profile



ありがとうございます。  
お話を聞かせてください。

鹿児島県出身の4コマ漫画家。  
鹿児島大学理学部数理情報科学科を卒業後、竹書房にてY-1グランプリ月間賞を受賞、現在「まんがくらぶ」・「まんがライフ MOMO」の2誌にてK大学理学部数学科に通う女子4人の生活を描いた「数学女子」を連載中。

67号では、主に漫画に関する内容を報告します。

— いつごろから漫画家になろうと思っていましたか？

小学校のころから漫画家になりたいと思っており、4年生の時には既にノートに漫画を描いて友達に見せたりしていました。

将来は絶対に「漫画家になる!!」と心の中では決めていましたが、将来の希望を誰に話しても「漫画家になれるはずがない!」と言われるため、表向きでは将来は「学校の先生になる」ということとしておきました。

— 漫画には様々なジャンルがありますが、数学を題材にした内容で漫画を描こうと思った理由やきっかけがあれば教えてください。

久々に大学時代の友人と会ったとき、「学生時代もっと楽しんだり、遊んでいればよかった」とぼやいていたのが衝撃的でした。私にとっては普通の楽しい学生生活でしたが、そんなことを思うのは『数学科に通う女子』ならではの悩みだろうなと感じました。そうした学生生活のことを漫画に描いて出版社に応募してみるとありがたいことに連載する方向で話が進み、漫画の連載へと繋がりました。

— 漫画の作成について教えてください。

1号あたり大体6ページの分量ですが、ネタを考えたり、ネーム(コマごとの構図や割付、セリフなどを大まかに表したもの)作成は時間の許す限りなのでまちまちです。作画には4日くらいかかるので遅筆の方だと思います。

小ネタについては自分で見たり、人から聞いた話の中で「面白い!」と感じたものをいつか使えるようにとメモを取って残しておき、ネームを作る段階でそれを見返したりしています。その他、ふと思いついたり、その時の気分によっても出てくるネタも様々に変わったりします。

また、大学時代の友人からネタを提供してもらうなど、「数学女子」は数学科の友人にも助けってもらいながら描いています。

— 数学は今の仕事に役に立っていますか？

大いに役立ってますね(笑)

しかし、数学科を卒業してから頭も眠っている状態なので計算間違いなどをすることも多いし、漫画の中で使う数学のネタを考えるのは結構大変です…。

— 高校の数学の先生にメッセージなどがあればお願いします。

私の個人的な要望になるかも知れませんが、学生時代に様々な数学者のエピソードなどを知っておきたかったということがあります。そうすることで興味対象が広がったり、数学分野への進路展望が広がったりするのではないかなど、大学で数学を学び、卒業してから特にそう感じるようになりました。

高校の数学は様々な分野を少しずつつかじるような勉強が多いのでご指導される先生方はとても苦労されていると思いますが、もし余裕があるようでしたら、授業の合間にぜひともお願いしたいと思います。

お忙しい中、どうもありがとうございました。